

記憶の継承

■八幡川の灯籠会は先祖から受け継いできた命を灯で表現することで、生活や人生が連綿とつながっていることを町民全員で再認識する場となっていました。

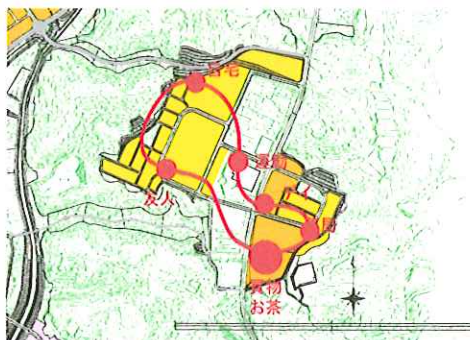
■今回計画される医療・保健施設は、生活や命のサイクルの中心となるように設計することで、一度失われそうになった南三陸町の灯を取り戻すことを目指します。

■この施設は今後まちなかに散りばめられる住宅や公園、役場といった、人々を照らす灯のさきがけとなります。

施設の位置づけ

■今回設計する施設は、南三陸の人々の暮らしと健康を支える3つのサイクルの中心となります。

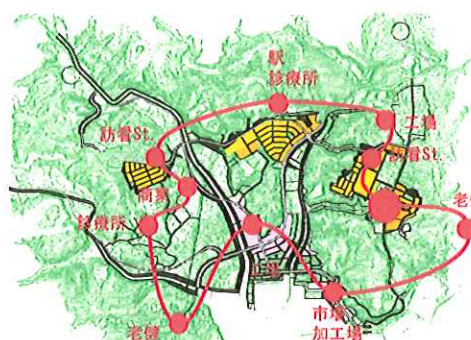
一日の健康を保つ「**生活のサイクル**」
アリーナ地区住民の日課・運動の中心



■将来アリーナ地区は住宅地として発展します。高齢者でも毎日散歩ができるバリアフリーのまちづくりを行い、健康な日常生活を提供します。

■住宅地、商業地と機能ごとにまちを分割するのではなく、アリーナ地区に様々な機能を入れ込む手がかりを本施設に盛り込みます。

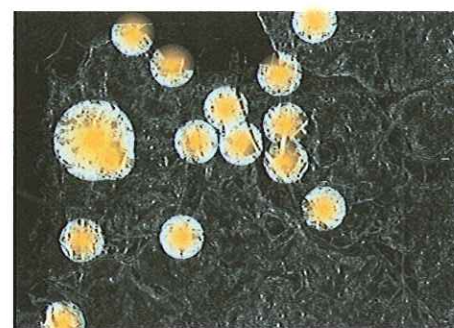
一年の健康を保つ「**年輪のサイクル**」
南三陸町の健診・通院の中心



■健康時には仕事・運動・健診の定期的サイクルの一部となることで、南三陸町の住民の健康を維持します。

■病気になった時には治療・リハ・維持という数か月の治療サイクルの中心になることで、住民は年齢という年輪を重ねます。

一生の健康を保つ「**非常時のサイクル**」
気仙沼医療圏の救急・避難の中心



■毎日、毎年この施設に通うことで、南三陸の人には「何かあればここに来る」という意識が生まれます。

■一生に一度の病気、ケガ、災害時はまずここに来て治療や処遇を行い、必要に応じて周辺地域と送り出し・受け入れの調整を行って命を守ります。



鳥瞰イメージ

7つの提案

1 患者本位である病院

■患者のこれまでの生活、これからの生活に基づいた無理をしない医療を心がけ、病院だけで治療を完結させず保健福祉と連携します。
■そのために、日頃から医療と福祉のスタッフが交流できる空間や、病院の中で保健福祉のスタッフが治療に参加できる空間を設けます。

2 南三陸の核となるまちづくり

■用がなくても立ち寄りたくなる「**みなさん通り**」を施設の中心に置きアリーナ方面に積極的に開き隣接敷地との接続を考えます。
■震災直後から地域情報を発信している「**FMみなさん**」のように、みなさん通りに来ると地域の新鮮な情報や物品が手に入ります。

3 地方経済の活性化

■津山杉をはじめ地産の良質な自然素材を積極的に利用します。
■一日数百人規模の病院の「**集客力**」を利用して、みなさん通りでミニ市場やイベントを開催します。

4 参加する協働の医療

■これからの医療は、患者とともに治療を行なう時代です。その実現としてスタッフ、患者、町民の誰もが使える図書館をみなさん通りに設置します。

5 ICTの活用

■電子カルテの共有によって周辺の医療・福祉施設とスムーズな連携を図り、クラウド化でバックアップ体制を強化し災害に備えます。
■住宅でも医療情報を閲覧入力できるようにすることで、訪問診療・介護患者データをサーバーに蓄積し次の治療に役立てます。

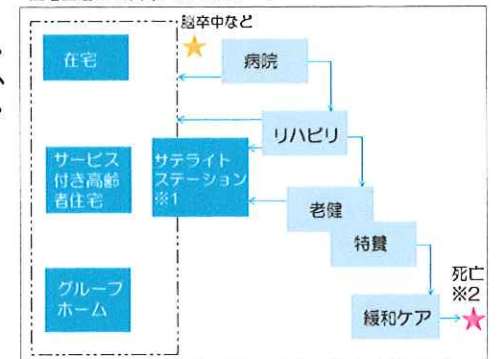
6 環境への配慮

■町内の訪問は電気自動車を利用し充電ステーションを設置します。
■太陽光発電・集熱、雨水利用、小型風力発電など自然エネルギーを取り入れて省エネルギーを図り、地場産材を用いることでCO2を削減します。
■均等スパンによる標準化で建設コスト削減と、フレキシブルに増改築可能な平面計画を持つ長寿命建築を目指します。

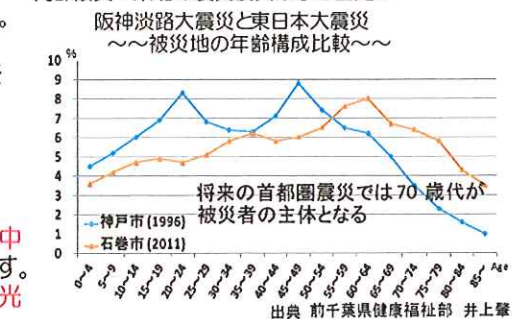
7 復興計画との連動、阪神との相違

■阪神・淡路大震災とは被災者年齢層が異なり復興する頃の**生活の中心は超高齢者**であることを見据えた医療・保健福祉施設を提案します。
■具体的には病床数の変更に対応する**シンプルな病棟平面、天井採光**による明るい病室を採用し、超高齢患者の療養環境を向上させます。

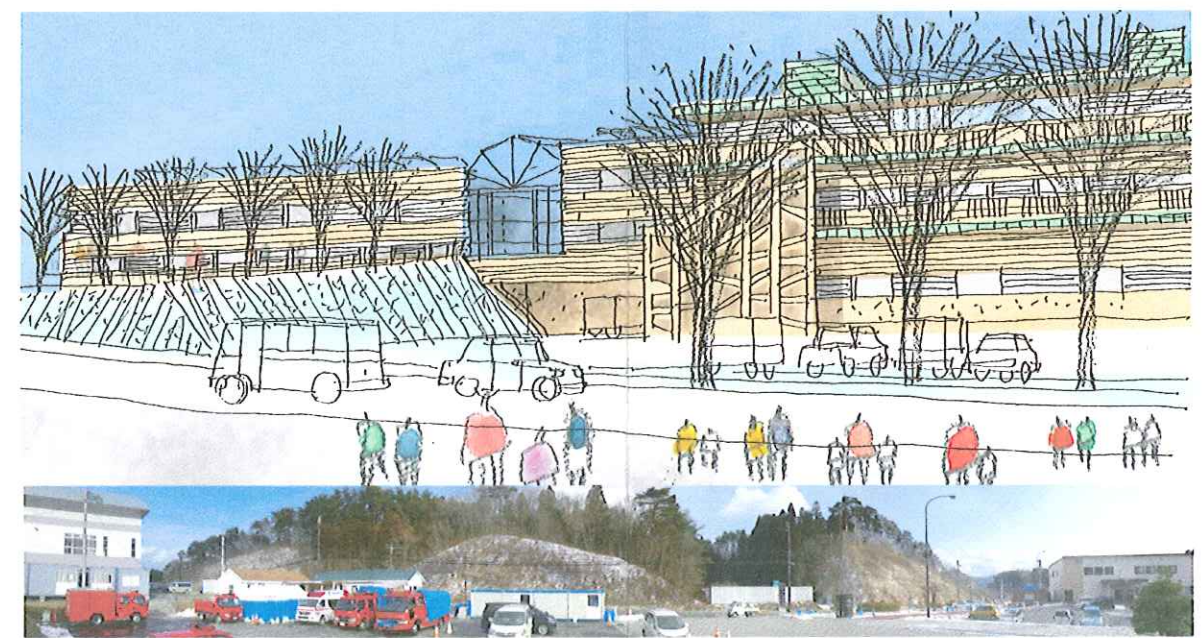
在宅生活から終末へのエピソード



高齢被災：東北の震災復興はなぜ困難か



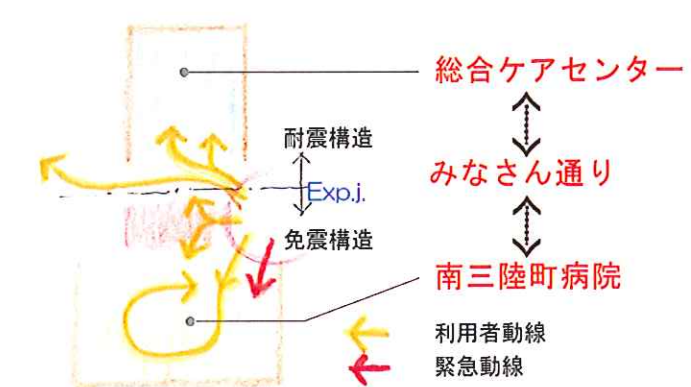
東側全景



豊かな海に水を注いできた山並みを思い起こす屋根形状と、津山の埋もれ杉細工をモチーフにした落ち着いたファサード



連携と明確な管理区分



配置イメージ



みなさん通り

各部門の考え方

みなさん通り
■病院・総合ケアセンターの利用者を中心とした人々が集う賑わいと憩いの場です。お年寄りが用がなくて過ごす安らぎの空間でもあります。普段から町民とコミュニケーションできる場として、スタッフが表に出やすい計画をします。
■民間の商店、企業が出店することを想定しています。「道の駅」の機能を持たせてもいいでしょう。特産品、海産物、B級グルメなど南三陸町ならではの企画が期待されます。

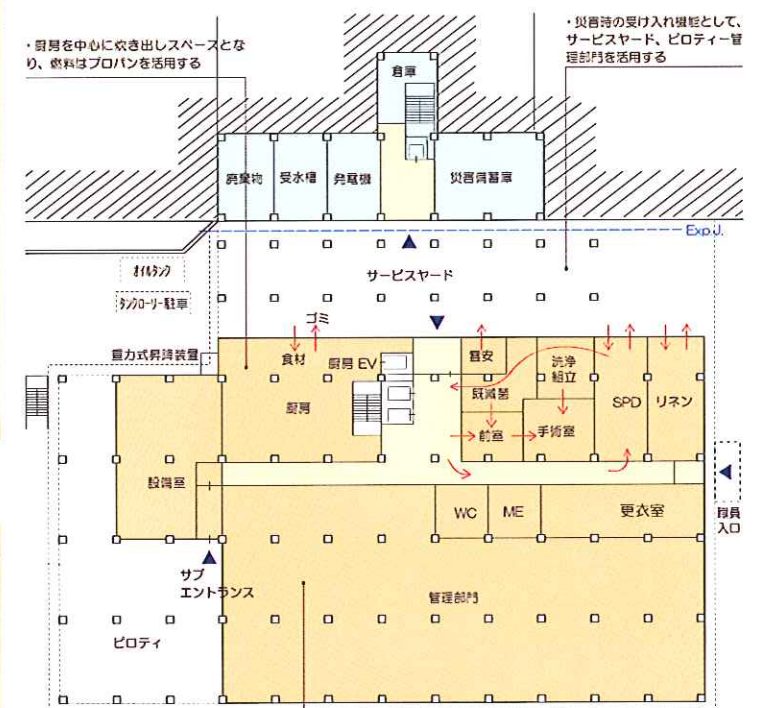
病院と総合ケアセンターの連携
■南側に病院、北側に総合ケアセンターを配置し1階と2階でつなぎます。二つの機能は相互に連携することでワンストップサービスをみなさん通りで行い、お年寄りに優しくこまめな対応を実現します。
■1階にメインの機能を集約し、病院は外来、画像診断、検査、リハビリなどを一筆書きの動線でわかりやすく構成しました。総合ケアセンターは1階に地域包括ケアセンター、地域活動支援センター、保健福祉課など病院利用者と関連の深い部門を簡潔に配置しています。

明快な管理区分
■病院と総合ケアセンターはみなさん通りを境に明確に分かれています。運営時間の違いや双方独自の運営・補助金に対応できる設計です。

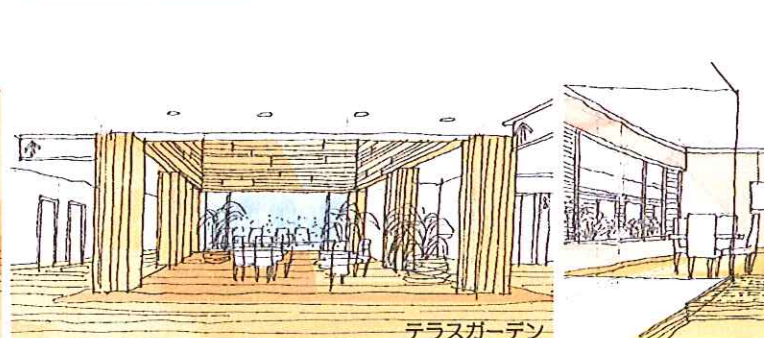
■免震構造の病院と耐震構造の総合ケアセンターはともに単純な基礎平面形なので、揺れの違いを比較的に解消できます。

特長ある病棟計画
■一般病棟は急性期治療空間としての稼働を高めるため、個室率を40%とします。多床室は将来の個室転用を考慮してシンプルな平面形状としますが、廊下側のベッドを反射光で優しく照らすハイサイドライトを設置します。
■療養病棟については生活環境を重視した計画とします。デイコーナーやテラスを多く設け、部屋から出て日中を過ごせる環境を提案します。OTを病棟に配置し病室・病棟リハを行い、寝たきりにならないよう病棟リハ室を設置します。

災害時の対策
■病院の地下1階には管理部門、供給部門、備蓄庫、設備室を配置し、災害時の指揮所とします。トリアージエリアとなるみなさん通りと上下で明確に区分しながら、人力の重力式昇降装置で物品や人を上下搬送できます。
■サービスヤードは厨房を拡張した炊き出しスペースとして利用します。年に1度、備蓄食料を用いた食事会を行い、非常時に備えます。



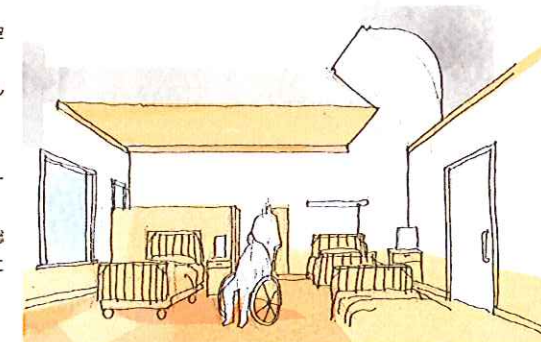
地下1階平面イメージ



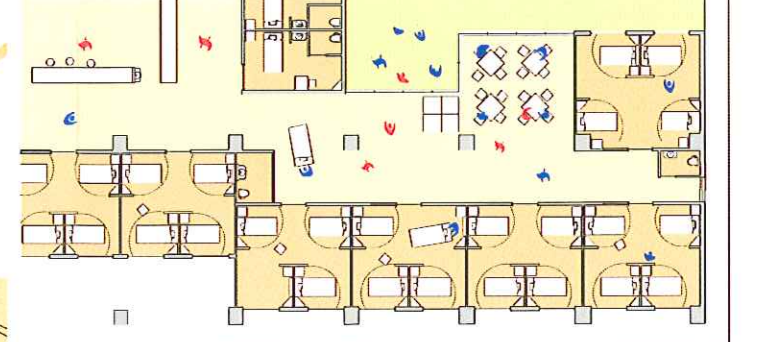
テラスガーデン

病院施設の考え方

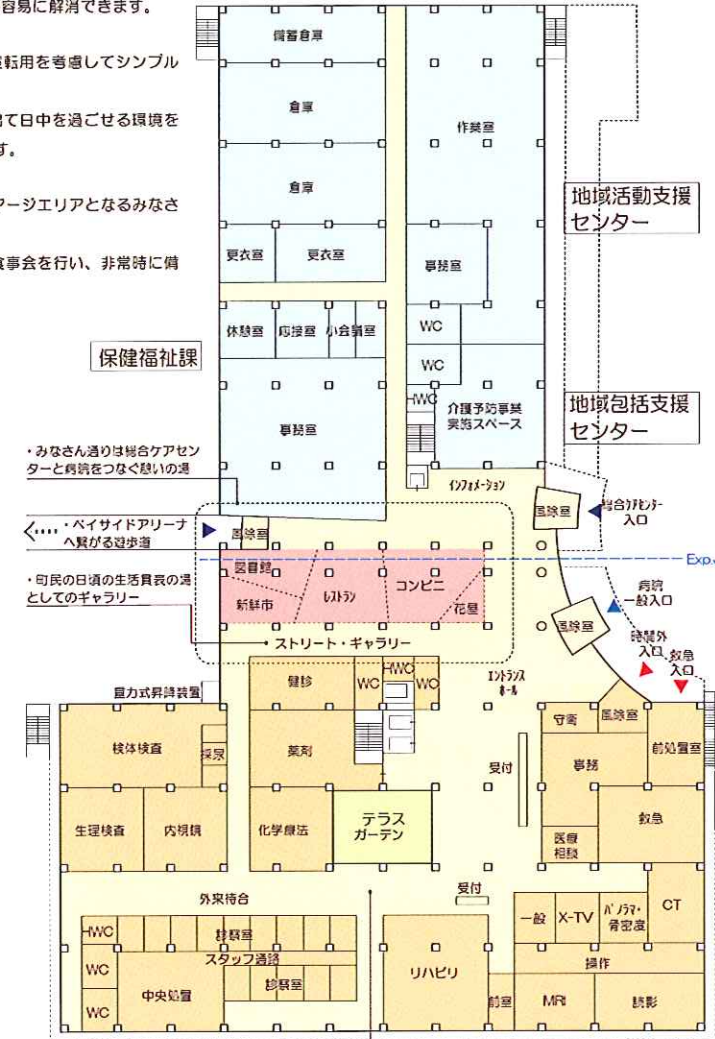
町民の憩いの場として、病院・総合ケアセンターの利用者を中心に生活に必要な機能を配置し人々が集う賑わいの場です。



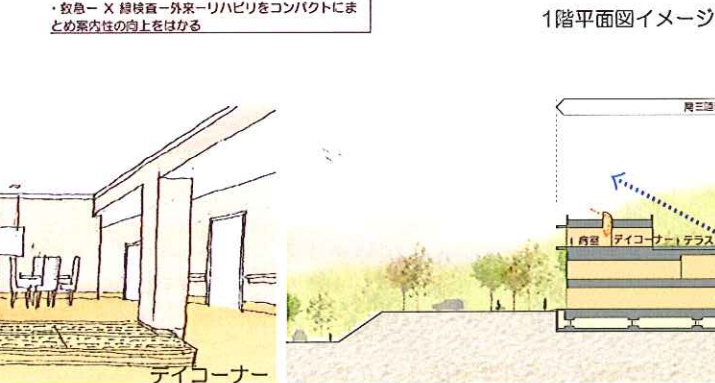
病室空間イメージ



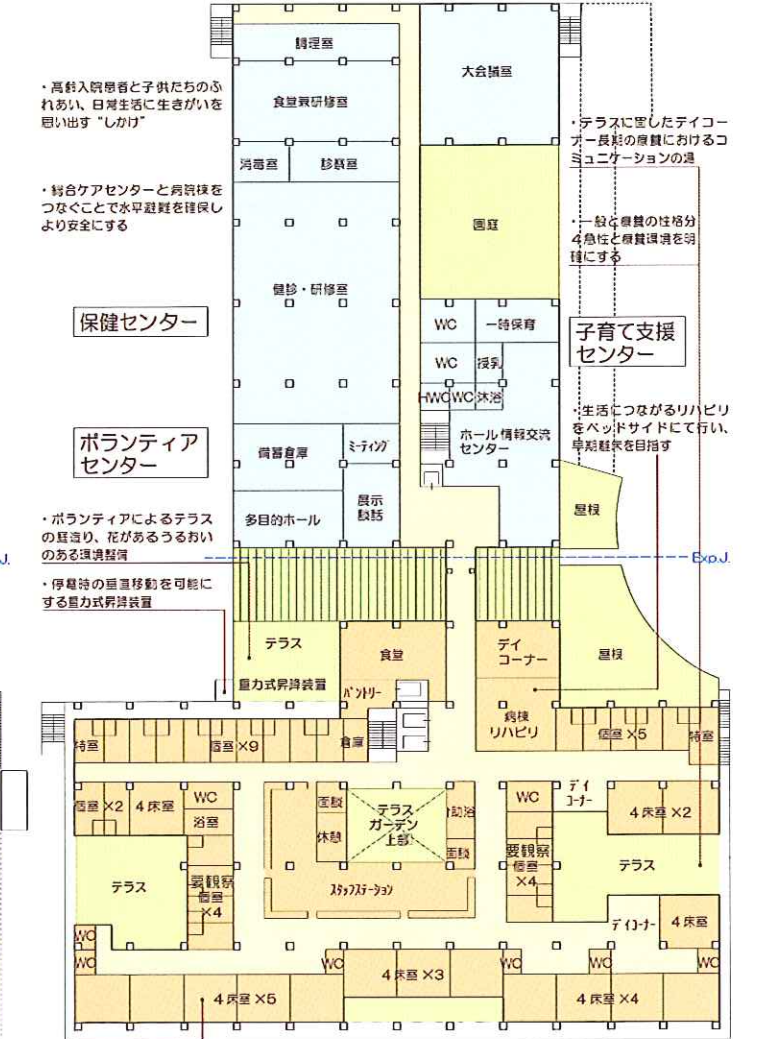
テラス&テラスの交流イメージ



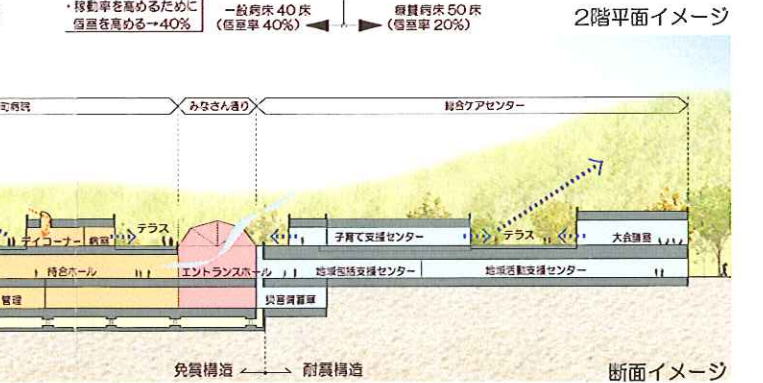
1階平面イメージ



デイコーナー



2階平面イメージ



断面イメージ